

5月23日（金）

「6年生平和学習～紙芝居朗読～」

阿武小の図書支援員・地域学校協働活動推進員田中さんのご縁で、コープやまぐちピースサポーターの皆様による紙芝居の朗読がありました。題は「8月5日で終わった日記」。この紙芝居は2015年に山口県ピースアクション実行委員会主催の「原爆被爆・終戦70年企画」で講演された中村 雄子（なかむら ゆうこ）さんのお話を、紙芝居にまとめられたものだそうです。内容は13歳の中村さんの被爆体験と、被爆死した友人・森脇 瑤子（もりわき ようこ）さんが残した日記から、子どもが犠牲になる原爆の悲惨さと核兵器廃絶を語りかけるものでした。今回は、修学旅行を前に平和学習を進めている6年生に朗読していただきました。最初に目を閉じて、広島、長崎に落とされた原子爆弾に見立てた1個、1個のビービー弾が金属のボールに落ちる音を聞きました。そして紙芝居が作られた当時、全世界で保有されていた1万5千8百個もの原子爆弾の数の多さを、流れるようにポ



ールに滑り込むビービー弾の音で実感しました。

振り返りの中で子どもたちは、世界に存在する原子爆弾の数の多さに驚いたことや、平和を守っていきたいという思いを公表していました。五感を通して様々な視点から考えることのできる大変有意義な機会となりました。



TYS のニュース番組
mix で紹介されました。
インタビュー収録中です。

